

東小学校だより

No.11号

ひがし



- ◆進んで勉強する子ども
- ◆明るく思いやりのある子ども
- ◆健康でねばり強い子ども

【基本方針】 夢を育み、笑顔で「学校が楽しい」と充実感を味わえる学校

第27回都城市小学生読書感想文コンクール

3月4日(土) 都城市立図書館において、令和4年度第27回都城市小学生読書感想文コンクール表彰式が行われました。東小学校からも6名の子どもが入選し、そのうち銅賞以上の子どもたち2名が表彰をされました。おめでとうございます。(学校HPにも掲載)

今回の学校便りでは、その2名の作文を載せます。

【金賞】 自分の力で生きる 東小学校 3年 松村 康汰

ぼくは、「魔法の自動はん売き」というお話を読みました。この本を読んだきっかけは、魔法の自動はん売きの本の題名にびっくりして、どういう話か知りたかったからです。

こうへいが、魔法の自動はん売きから、ほしい物を手に入れる所が一番心にのこりました。その場面のどんなところが心にのこったかという、1回目は、ほしかったカブト虫、2回目は算数のドリルが出てきたところです。

でも、それよりおどろいたのは、こうへいの算数のテストが30点で、べん強するのにひつようなドリルが出てきたところです。

あのはん売きに書かれていた「あなたの味方」というのは、「今、自分にひつような物が出てくる」という意味でした。

また、こういう場面もありました。体育のテストでの前の日は、とびなわが出てきました。それが二重とびも、楽々できるとびなわだったので、それは少しうらやましく思いました。

ぼくも、魔法の自動はん売きがほしいと思いました。でも、すぐに考え方をかえました。それに、ずっとたよるようになるからです。だから、やっぱりいらんと思いました。

また、話の中、とうとう友だちにばれて、自動はん売きのことを話すことになりました。あまりにも自動はん売きにむ中になり、友だちとも遊ばなくなってしまったからです。

それでも、友だちは信ようしていなかったのですが、魔法の自動はん売きから、マンガやゲームが出てきました。それで、友だちも信ようしました。ちなみに、ぼくはこの場面が好きです。

ところが、ある日、はん売きがとつぜんきえてしまいました。それは、お母さんが自動はん売きのボタンをおしたからです。こうへいのために、はん売きから、そつぎようしてほしかったからでした。その時、こうへいは、悲しそうだったけど、こうへいのためだから、ぼくはよかったと思いました。

この本の中で、一番好きな文章は、

「あとにのこったのは、七色の大きなにじ。にじは、青い空にのむこうで、きらきらとかがやいていた。」

という文章です。そのわけは、こうへいの悲しさが、一番分かるから、好きです。

ぼくは、この本を読んで、いろんな物にたよりすぎないで、自分の力でできる所は、自分でやらないといけないお思いました。この本で、魔法の自動はん売きは、たしかにほしいけれども、ぼくは、自分の力で、何事もやりとげたいので、魔法の自動はん売きはいらんいです。

ぼくは、

「自分の力で生きる。これからも、ずっと、ずっと。」

読んだ本の名前「まほうのじどうはんばいき」

【銀賞】世界がもし100人の村だったら 東小学校 3年 天野瑞希

わたしは、この本のだい名にきょうみをひかれました。なぜなら、世界がもし100人の村だったらという本の内容が気になってたからです。

この本は、地球の人を100人にちぢめたら、どうなるかを表わした本です。たとえば文字が読める人やお金もちの人がどれだけいるかを分かりやすくまとめた本です。

わたしが心に残ったところは、

「20人は栄養がなく、1人は死にそうなほどです。」という所です。なぜかという、わたしたちがこうやっておいしいごはんなどを食べているときに、くるしくて、うえ死にする人がいるということをはじめて知ったからです。

わたしはとても幸せものだということにはじめてきがつきました。なぜかという、世界にはたくさんまずしい人たちがいっぱいいますが、わたしはまいにちごはんを食べ、平日には学校に行き、お風呂もあり、ならいごとができたりしています。そして、休日には家族とお出かけに行ったりできます。また、学校に行って、じゅぎょうをうけることができます。わたしはたくさんのしゅくだいをするのはいやだと思っていましたが、学校に行けない人たちも多くいると知って、めぐまれているほうなんだなと思いました。平和だってそうです。